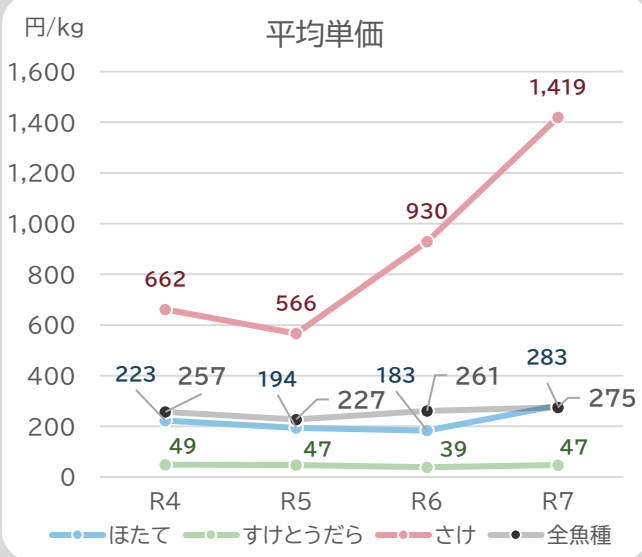
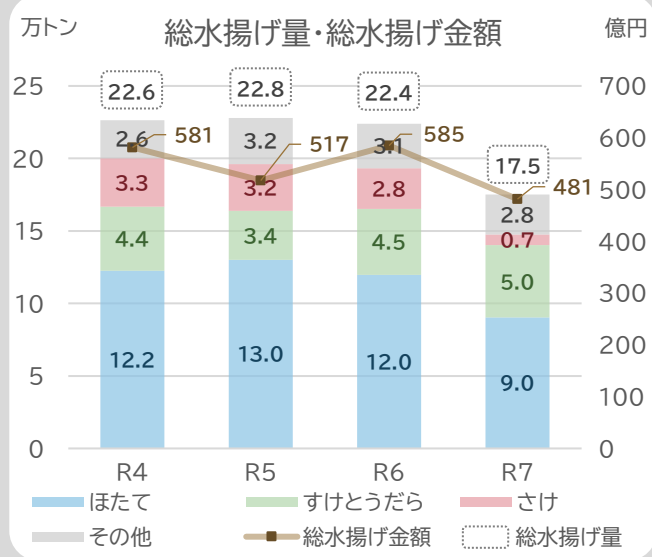


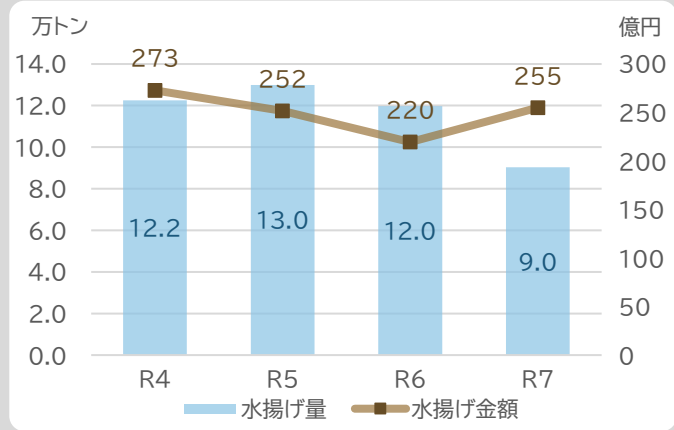
総水揚げ量及び総水揚げ金額は、ともに減少傾向にあり、一部の魚種では不漁に伴う単価の上昇が見られる。



>> 漁業協同組合の生の声

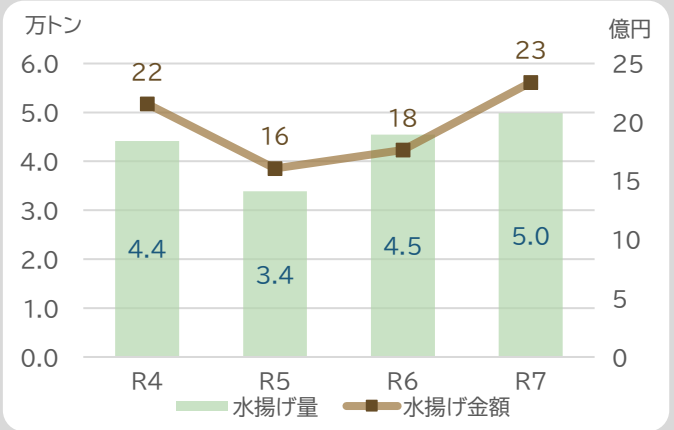
- ここ数年、水揚げ量は減少傾向にある。具体的な因果関係はよくわからないが、おそらく海水温の上昇やプランクトンの減少が主な要因と考えられる。
- さけについては、放流した稚魚が、海洋環境の変化により戻ってきていないと考えられる。
- さけとホタテは、不漁につき供給不足が生じているが、需要が旺盛であるため、単価が上がっている。
- 気候変動に対する方策について、近隣の漁協と協議を行っているが、現在のところ具体的な方策はない。
- 今後も、海水温の上昇などの影響が続くと考えられることから、水揚げ量は減少していくと予想される。

ホタテ



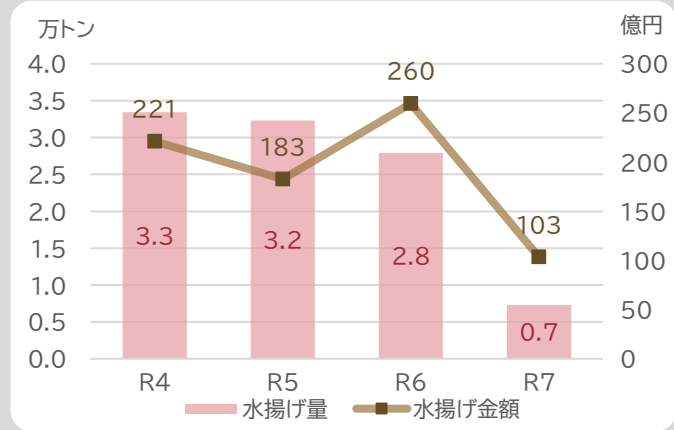
水揚げ量は減少傾向。水揚げ金額も減少傾向にあったが、R7に上昇に転じ、平均単価も上昇している。

すけとうだら



水揚げ量は概ね増加傾向。水揚げ金額も、R5以降増加傾向となっている。

さけ



水揚げ量及び水揚げ金額は、R7に大きく減少したが、平均単価は上昇傾向が続いている。

資料：網走漁協、紋別漁協、常呂漁協、湧別漁協、ウトロ漁協、斜里第一漁協